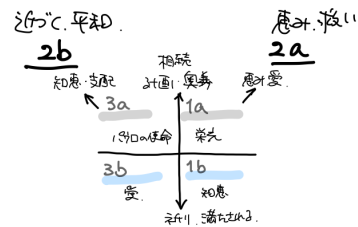
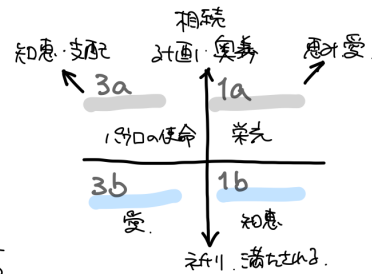
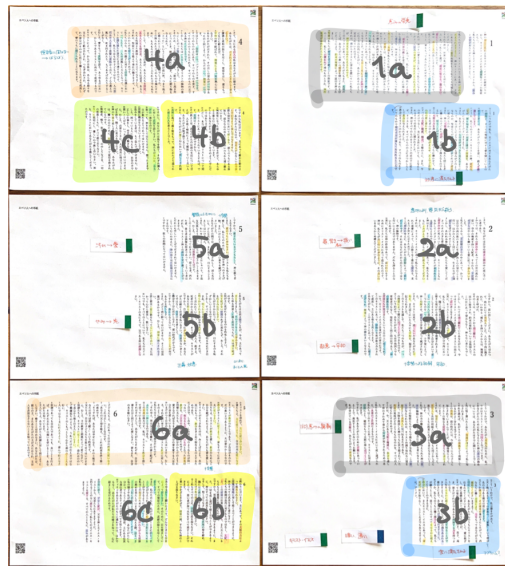




# まると読む・エペソ人への手紙 #6 段落のつながりを確認する

エペソ人への手紙：段落のつながり 1: - 3: 2020.4.8



まると読む聖書、エペソ人への手紙ということで進めていますけれども、段落を分けてそのつながりを探る。これは難しいですね。それで、そのキーワードを見つけたりするという作業をしていましたけれど、そのキーワードのグループを手がかりにして、まとまりのつながりを見る。そのつながりが束のようになっていますから、それを確認するというのが構造分析というものだと思います。

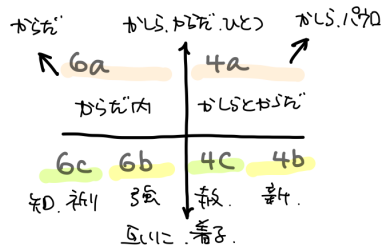
普通に読んでいるこのスタイルの聖書の書き方だと、比べる箇所と箇所が別の段落だったり、別のページに入っていますと形が見えませんが、段落に分けた紙を作ったわけです。この段落に分けた紙は、最初はざっと分けるます。ざっと分けて区分して、長さのバランスはどうか、テーマのバランスはどうかと思って、直しながら見ていくわけです。

今回は1章から5章までが1枚ずつになっていますけども、他のものはそうとは限りません。章の途中で区切られていることがよくあります。それで、この表にした時に、1章3節から14節というのがすぐわかりませんので、1aと1b。2aと2b。上の段をaとbというふうにしました。新しい章の呼び方ということで名前をつけました。4段落目と6段落目は長いのがあって、短いのが2つ続いているようなものなので、4a、4b、4c。6a、6b、6c。5章21節から6章ということだろうと思いますので、今ついている章は、5章21節からですけども、ここは6aと呼ぶことにします。それで、この図の通りに並べてみてくださいね。この6枚の紙を印刷したら、この順番に6枚を並べて自分で広げてくださ

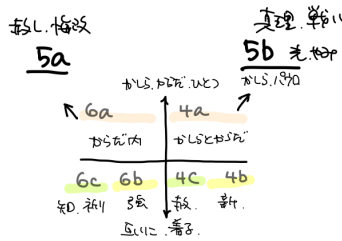
い。そうすると、1枚目の1aと1b、3aと3bが似ているのだなということがもっとよくわかると思います。1aと1b、3aと3bというのを並べて比べるという事です。それで比べたとき、この祈りの部分と祈りの部分、それだけに集中して分析したのがこの祈りの分析でした。この表でグレーと水色がありますから、1a、1bを見ます。この右側に十字架の形になっている図は、関係を記録するためにこの公式を使っています。1aと1b、3aと3b。この聖書の紙を横に並べた感じですね。1a、3a。1b、3b。この下の2つは祈りなので、1bと3bは、「祈り」とここに書いてあります。1aと3aを比べると、奥義、奥義、奥義、計画、計画、御心。そんなキーワードが出てきますので、計画、奥義、相続などもありますね。御国を受け継ぐ者、御国を受け継ぐ者、共同の相続人である。そういうことかと言って、ここに「相続」と書いたりするわけです。上の1a、3aの共通のキーワードなりテーマ。1b、3bの共通しているものというものをここに書くわけです。ですが、全く同じ文章じゃないわけです。ですから、似ているということになったら、今度は違いは何だということを見ていかなければいけません。下の段を見てください。1と3が似ていましたから、2を放っておきました。大切な2を放っていたのですけど、ここで2が登場します。2の上の段2aと、下の段2b。2bと3aが実は話が繋がっているのではないかと。紙も続いていますから。ずっと来て2bの最初に「だから異邦人は」とあります。異邦人とユダヤ人は一つですという話をして、パウロはその異邦人に伝える使徒となりましたと言っていますが、これは話が繋がっていますよねということです。（続いていると言ったら、この上の段で4つ、1と3を平行分析したものの中で、2bと3aが繋がっていますよねと言ってたのです。。。その前にこっちをやらないといけないうすね。）1aと3b、3aと1b、この1と3の計画と祈りに対して、1のほうの共通点、3のほうの共通点よりも、1の前半と3の祈りのほうがくっついて見えるじゃないかと。それと3のメッセージと1の後半のほうがピッタリ来るんじゃないのというのが目立つ。位置的、場所的には1、3なのですけど、この1aと3b、1bと3aというこの残っている組み合わせのほうが内容的に近いのではないのでしょうかというのが、このぼつてんのほうです。1aと3b、これは神様の恵みとか愛について語られている。3aは異邦人の話。1bは支配の話なのですけども、その神様の力によってすべてのものを支配するキリストイエス。それがここで知恵だと言われてますよね。知恵、啓示。3aのほうも奥義が知らされるこの啓示されている知恵ということですので、知恵、啓示というものが、支配している方の知恵と啓示みたいな感じですかね。それで、このぼつてんの共通点のほうが強いのではないのというこの2つのクロスしてる共通点と上下の共通点、これを合わせると4段落できるという事です。1aは「恵みと愛で計画」、1bは「知恵、支配と祈り」、3aは「計画と知恵、支配」、3bは「祈りで愛」という段落ですよというように、4つに分けたということです。

もう1回戻ります。2bと3aが異邦人でつながっているじゃないかということだったんですけれど、それをどこかにこの2aと2bをうまくこの1とのつながりの中で入れられれば、パズルがパチンとはまると。2bが3aのところについてたね。残っている2aは、もしかしたら1aのほうにくっついてるのかなと言って確認するわけです。それで確認した結果、あーなるほどここは、恵みとか救いとかっていう段落だねと、2aは。それで2bは異邦人と一つになると平和だという話をしてるんだねと言うと、このぼつてんの強調として、ここに2a、2bというのが、この周りの1、3の間に、2がちゃんとはまってるんだねということが確認できます。それで2a、2bの他と違う共通点は何なのと言うと、どちらも十字架と復活というのが強調されています。そういうものかなと言ったら、今は1から3のほうを見ましたから、次に4から6までを見て、4から6までも同じような形で分析をして、ひとつのまとめだということが確認できれば良いです。

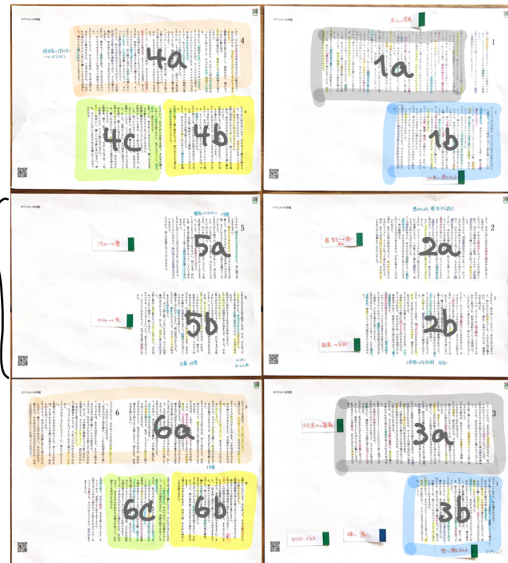
エノヤノ手紙：段落のつながりさざり 4:-6: 2020.4.8



4c / 5a = 正しい行ない?



光の御子に似る。

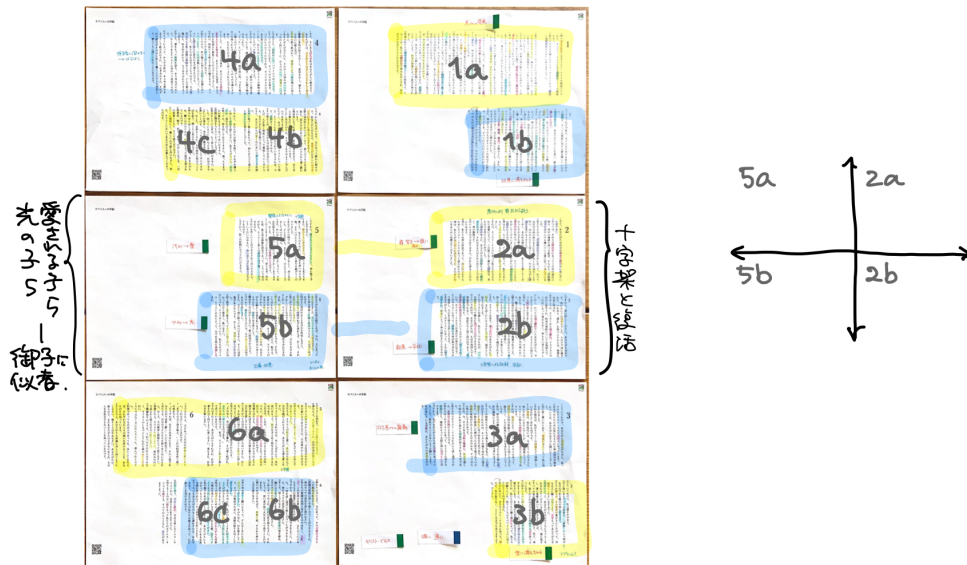


それで次が4章から6章。目が回ると思いますが、目をたくさん回して下さい。目が回った後に、もう1回引いてみると、だんだん見えてくるんじゃないかなと思います。4章から6章も似ているよねということは見えていました。5だけ別にしていました。まず4と6の並行を見ます。4aと6a、これはかしらとからだ一つです。6aのほうはからだの中が一つです。どちらも一つですという話をしていました。4b、4c、6b、6c。4cと6cは、互いに、互いにということでした。互いに赦し合う、互いに折り合うということですね。もう1つあったのが、4のほうは新しい人を着る。6のほうは武具を着るということでした。これが似ているねということですので、かしら、からだ一つだねということものと、互いに、そして、着ると、新しくされるということが、4の前半と後半の4のbc、6のaと6のbc。このaとbcの違いということでした。それで、6aと6cと、4aと6b、6cというのは、かしらとからだは一つです。かしらとからだバラバラにならないようにというような感じですね。かしらとからだの話をしていますので、6cの互いには、パウロのために祈ってください、パウロの事を知って下さいというようなことを頼んでいるのですよね。戦うリーダーの話ということだと思います。戦う側という意味で6b。6aと4のbcというところは、互いに赦し合う、従い合う、正しい行いをするという感じですね。そのつながりがあります。ふさわしいからだになる。不潔を止めて、情欲を捨てて、新しい人間になるという感じですね。この上下とクロスしてるところの共通になるだろうと。

先ほどの、異邦人と異邦人のつながりというのが、真ん中の2bと3aが似ている段落で、つながっていたのですが、今度は4cと5a、これもつながって見えると思います。段落を句切ろうとした時に、ずっと4を読んできて、4の終わりのところで、互いに盗むな、悪口を言うなというようなことを言って、5章に入って、愛のうちに歩みなさい、聖徒にふさわしく淫らなことをするな、口に下品なことを口にするなという口の話をし

エペソの手紙：段落のつながりさざり 2:/5:

2020.4.8



ますよね。悪意、貪りというようなことをしますので、この正しい行いをしなさいというようなことが続いている感じです。ここ(4c)とここ(5a)が正しい行いで続いているのか。では、5bはどうなのか。さきほどは4cと6aが、からだの話をしていましたので、5aが、互いに正しいことを行うというような感じですね。残っている5b、5の後半のこの光の子供として歩みなさいという内容が、このパウロの話や、かしらとからだと並行するようになっているのであれば、この5のabというところ、4と6が一緒になるという鍵になりますけれど、5bは光と闇の戦いをしています。光と闇の戦い。6bも闇と戦っていますね。真実、真理をもって、真理の帯を締めて戦っている。そういうのを見ると、ここは真理のために戦っているのかなとということ、このからだの話とかしらの話の2つのものとして、この5aとbがあるんじゃないかと。それで5aとbの共通点は何かという、5aは「愛されている子どもである」、5bのほうは「光の子どもである」ということなんですが、この手紙の最初のところで、御心のよしとすることに従って、私たちはキリストイエスによって、自分の子にしようとしていた、神様の子どもにしようとして愛をもってあらかじめ定めていたのです。これは御心なのです。神様の愛する子どもにする。神様の愛する子ども、そして光の子ども、この2つは、御子に似ているものです。そういう外側になっているのなら、2章と5章に関係があるだろうと。2章は十字架と復活でした。5章は神に似たものになる。その愛する子である子らであるということがここで言われているのではいかという仮説が成り立つわけです。それで今度、ここだけを取り出した2a,2bと、5a,5b。これも横に共通していること、縦に共通していることを見れば、この4つの言われているメッセージ、このエペソの中のあんこ部分みたいな感じのここに、ぎゅっと神の愛がフォーカスされてるようなものになっているんだろうと思います。その段落の関係が分かるんじゃないかとということ、この紙に自分でキーワードを入れてみたりして探ってみていただきたい。



それでも、ちょっとピンとこないねということがあると思います。2016年に私たちがエペソの分析した時は違います。やり直しています。3回目なのですが、前回と並行関係を見ているのが違っています。自分でちゃんと確かめられるはずですので、確かめてみて、「あれ、これはどうなってるんだろう。あれはどうなってるんだろう。でもこっちにも奥義があるよ。奥義と奥義一緒だったね。」とか。

2bで一つになる。4aも一つになると言ってる人がいましたね。そうなんですよ。2bの一つになる話の最後は「建てられる」。4の一つになるの最後も「建てられる」。じゃあ、今度、4aと2bがつながってるんだったらどうなるんだろう。1aと6aはどうなってると言って、今度、右側と左側の並行をもっと次の別の階層で見るということの段階にもなっていくんですけど、まずこの段落のところを見て、こう分けた人の意図はこうなのかなというのを探って頂こうかな。3週間でやるのは無理ですので、できなくてもがっかりしないでください。